第3回難聴児の早期支援・早期療育推進のための基本方針作成に関する検討会

2021年6月24日

一公立ろう学校における難聴児早期支援



手と心でつながる わかりあえる喜び 笑顔あふれる 松ろう (H30生徒会キャッチフレーズ)

島根県立松江ろう学校 校長 福島 朗博

「一公立ろう学校における難聴児早期支援」 報告発表の内容

- 1 本校のセンター的機能と乳幼児教育相談の体制
- 2 公立ろう学校としての早期支援の使命と課題
- 3 松江圏域新生児聴覚検査支援連絡会の成果 と課題
- 4 保健師との協働による未構築課題への対応
- 5 専門性の維持向上のための耳鼻科との協働
- 6 保護者支援(就学に関わる情報提供等)
- 7 まとめ

1 本校のセンター的機能の主要な取組

○通級指導教室 小中専任2名・高校兼任2名

通常の学級に在籍し、特別な支援・援助を必要とする 児童・生徒にそのニーズに応じて特別な教育課程を組ん で指導を行う *R2より高校通級開始

- ○教育相談 個に応じた教育サービスの提供や補聴相談
- ①乳幼児教育相談 専任2名(幼稚部籍) O歳からの難聴乳幼児の親子を対象
- ②児童生徒・成人教育相談・・・学部対応(主事等) 小学生以上の難聴児者を対象
- * 学校公開日・聴覚障がい早期教育公開研修会・ 聴覚障がい教育公開研修会・公開講座の案内(支援部)
- * 聴覚障がい教育研究会等の案内(研究部他)
- * 啓発用便り「みみだより」発行(支援部)

乳幼児教育相談の機能 ~O歳からの乳幼児と保護者への支援~

親子の支援子どもと

·家族支援 保護者支援 • 良好な親子関係やコミニュケーションの支援

- 子どもの全般的発達を支える
- きこえの把握と補聴器のフイッティング
- 両親や家族の障害の理解や受容、育児協同の支援
- カウンセリング、情報提供、保護者学習会、祖父母懇談、在宅訪問支援(乳児や重度重複障がい児など家庭のニーズに対応)難聴擬似体験、補聴器や人工内耳の紙芝居作り支援
- ・将来的な見通し(幼稚部等とのつながり、モデル、親同士のつながり、 難聴児をもつ親の会や小耳症しまねっこみみの会の紹介)

関係機関との連携(病院・保健師・幼保園・療育施設等)

- 早期教育公開研修会、在籍園巡回訪問、市町保健師研修会「乳幼児健診の聴覚チェックと新スク」、在籍園学習会、難聴擬似体験
- 出雲地区きこえに関する出前相談(出雲保健所:月1回)
- 松江圏域新生児聴覚検査支援連絡会(年1回)
- 鳥取大学病院耳鼻科・ろう学校4校合同勉強会(年3回)

連携・協働関係機関との

2 公立ろう学校としての(県に1,2校) 早期支援の使命と課題

- 聴覚口話も(補聴器や人工内耳の最大限活用)手話も(視覚的情報保障、早期の言語理解による意思表出が可能に)*別資料「松江ろう学校の取組」【3育児自立の支援の取組】参照
- 子どもの実態に応じながらトータルコミュニケーションで
- ・自覚的聴力検査と生活場面等の行動観察による聴覚評価、 先輩保護者や当事者のロールモデルの存在
- 乳幼児教育相談の校内における位置付けや体制、担当数は教員定数内での運用に任される(確立されていない)
- 特に児童発達支援センターの無い県では保護者の唯一の支援拠り所となる重責
- ろう教育の専門性かつ校内でも特異な専門業務、担当者の力量大・・・ 教員異動等や専門性の育成・継承が課題 指導教諭、エキスパート教員、専任教員?・・・
- ・耳鼻科医キーパーソンや言語聴覚士(特に人工内耳装用児の支援共有)の連携協働が不可欠 5

3 早期支援に関わる関係機関との連携協働【医療機関:耳鼻科】

- 〇耳鼻科医·STとの連携協働
 - 総合病院2院のキーパーソンとの連携中心に
- ・紹介報告等の文書の稟議・情報共有・調整
- •松江圏域新生児聴覚検査支援連絡会
- ・松江ろう学校学校評議員
- 鳥取大学病院・ろう学校4校合同勉強会
- · 言語聴覚士非常勤講師(本校自立活動50h/年) 人工内耳装用児生徒等中心に指導(担任等支援)

松江圏域新生児聴覚検査支援連絡会構成員

- く実施主体>
- 松江市 · 島根県共同設置松江保健所
- <参加者>
- 〇産婦人科(個人院4院)
- 〇耳鼻科(松江日赤病院、松江市立病院、鳥取大学附属病
- 院、個人院1院)
- 〇小児科(個人院1院)
- 〇行政機関
 - 松江市(子育て支援センター・障がい者福祉課)
 - 安来市(子ども未来課・福祉課)・雲南市(雲南保健所)
- 〇教育・療育機関 松江ろう学校(校長・乳幼担当)

早期支援に関わる関係機関との連携協働【松江圏域新生児聴覚検査支援連絡会】

〈目的〉新生児聴覚検査に関わる松江圏域の産科・耳鼻科・小児科の医療機関や行政、教育機関が一堂に会し、情報共有や課題検討を行い、聴覚障がい児と保護者・家族に適切な支援が行われるよう、聴覚障がいの支援 ネットワークの強化を図る。

(H29より)その他、聴覚障がい児への支援全般に関する現状の共有や課題の検討を行う。

生児聴覚スクリーニングと

松江圏域新生児聴覚検査支援連絡会の経過						
	松江圏域本連絡会の動き	島根県の動き	9			
18	「松江市新生児聴覚検査支援連絡会」発足(東森民・松江るる学校)					

会のもち



(争務同:悩江つつ子仪)

H1

H19

H20

H21

H23

H24

H25

H28

H29

R1

R3



安来市が加わり「松江圏域新生児聴覚検査支援 連絡会」となる *県健康福祉部オブザーバー参加

県健康福祉部 体制整備の検討



県健康福祉部「新生児聴覚スクリーニングと聴 覚障害児支援のための手引き」作成

一側性難聴の相談件数増加への対応策検討

「新生児聴覚検査体制検討会」県庁主催 で開催 (~H22の2年間)

事務局を保健所に移管 新スク実施院が全院出席に 松江市新生児聴覚検査費用助成事業開始

「手帳外補聴器助成が早期支援に対応してない」⇒

方を「聴覚障がい児支援全般」の課題検討に広げる

手帳外イヤモールド更新と義耳購入等の助成の課題検討

⇒県健康福祉部で県内市町村にイヤモールドのニーズ調査

安来市新生児聴覚検査費用助成事業開始

「一側性難聴児への配慮」チラシ作成・県ዘP 1=

県「軽度中等度難聴児補聴器購入助成事

業」開始(就学年齢対象)

助成制度の対象年齢「3歳以上」に変更 助成制度の対象「0~18歳未満」に変更

担当課より厚労省へ義耳助成の要望書提出

手帳外イヤモールド更新助成の開始

「新生児聴覚検査体制推進検討会」発足

「片方の耳の聞こえが悪い」と言われたら・・・

一側性難聴(片耳難聴)のお子さんへの配慮について



新生児聴覚スクリーニング検査などで再検査となり、その後「一側性難聴」と診断される お子さんは、軽度の難聴も含めると200~300人に1人ぐらいの割合であると言われています。

一方の耳が正常に聞こえていれば「音」として聞こえ、ことばも自然な関わりのもとで習得していき、「難 聴児」ではなく「聞こえる児」として育っていきます。

しかし、聞こえ方に多少の不自由があり、関わり方の配慮は必要です。聞こえ方の特徴を理解して、周囲 の人が配慮することによってより良い生活を送ることができますので、いくつかご紹介します。

聞こえ方の特徴・・・すべてのお子さんに当てはまるわけではないので、お子さんの様子をよく見て理解しましょう。

- ★一側性難聴の場合、「ステレオ」ではなく「モノラル」なので、音の「方向」や「距離感」をつかむことが 苦手なため、聞き逃しや聞き間違いがあることもあります。
- ★反響音が響く体育館のようなところや大勢の人でざわざわしているところでは、様々な雑音の中から聞きた い音を区別して聞き取ることが難しいです。
- ★「聞こえる場面」「聞こえ」

毎日の生活の中で配慮

★耳の健康に注意しましょ

- ・普段からかかりつけの耳鼻 的に通院し耳の健康管理を
- ・中耳炎などに注意し、鼻水

てもらいにくいです。いお連絡会の協議により、保健機関のとこ ろでも一側性難聴の支援が行き届くよ うに、島根県健康推進課でリーフレッ トが作成されました。島根県及び松江 保健所のHPでダウンロードできます。

松江圏域新生児聴覚検査支援連絡会の成果

- 〇産科医等への新スク後のフィードバックの場 新スク児の経過や支援状況の情報共有と課題検討
- 〇松江·県共同保健所の運営より、協議で挙げられた課題が県レベルの早急な対応に繋がる
- ex.母子手帳結果貼付の徹底、手帳外補聴器助成の拡大、一側難聴や小耳症の支援、受検料補助の市町拡大、軽度中等度難聴の教育支援とイヤモールド費助成への動き、疑耳の助成要望書の厚労省提出、軟骨伝導HAの助成調査、サイトメガロウィルス治験の情報提供、新スク・パス児への対応の強化
- 〇県各圏域に同様の支援連絡会を広げていくためのモデルとしての使命

小耳症サークルしまねっこみみの会

タなさん小耳症をご存じですか?小耳症とは、5千から1万人に1人と言われる耳の形成不全です。私は同じ仲間を求めて、2012 年島根県に小耳症サークル

しまねっこみみの会を立ち上 んの仲間に出会い、年 2 回交 の仲間が待っています。みなる ませんか?

地域の「小耳症児の親の会」の情報提供は、保護者へ具体的な支援の提供ができると、特に産科医師に受け入れられました。

活動内容 年 2 回の交流、情報交換(耳介形成手 術・義耳・軟骨伝導式補聴器など)会報

新スク支援体制の継続的課題

H20県体制整備で「手引書」は作成されたけれども・・・

- ・県中部・西部の体制構築の遅れ
- 県外含む精密検査機関(耳鼻科)との連携課題
- 各圏域の実情に合わせた支援体制の構築が課題
- ⇒保健師連携·松江圏域連絡会モデルの働きかけ

分娩機関19 院中18院で 新スク実施 (H29~)



●新スク実施の総合病院

益田地区

- ▲精密検査実施の総合病院耳鼻科/出雲地区
- ■ろう学校乳幼児教育相談2校。

浜田地区

●▲ 浜田ろう 学校

> 県立広島病院 広島大学病院 広島市立病院

大田地区

鳥取 大学 病院

岡山 大学 病院

島後地区

島前地区

松江ろう

学校

松江地区

奥出雲地区

鼓ヶ浦子ども 医療福祉センター等

島根県は東西に長く、県外含めて精査機関が圏域で異なる。 松江圏域以外は支援体制や連絡会が依然未構築の課題あり

飯南地区

4 早期支援に関わる関係機関との 連携協働【保健機関:保健師】

保健師との連携協働:即効性の高さ 情報共有による保護者支援で体制の未構築カバー 保護者の情報が入ったらろう学校を紹介・繋いで 〇県内市町保健師研修会

「聴覚障害の理解と支援~健診時の聴覚チェックと新生児聴覚スクリーニング~」説明と連携の協力

〇本校会場で行う早期教育公開研修会

医療機関や療育機関、幼保園等対象:乳幼・幼稚部の保育と幼児聴力検査の公開・講演・情報交換

5 専門性向上のための耳鼻科との連携協働 鳥取大学病院耳鼻科・ろう学校4校合同勉強会(年3回)

```
<実施例>〇年〇月〇日(日)
10:00~11:35
  講義1「聴力検査のポイントについて」
       鳥取大学医学部言語聴覚士 玉川友哉氏
  講義2「重症心身障がいを伴う難聴児の補聴」
       鳥取大学医学部耳鼻科医 矢間敬章氏
11:35~11:55
```

事例発表「関係機関との連携について」(松江ろう学校) 〇鳥取大学病院耳鼻科 医師・言語聴覚士:本校非常勤講師 〇鳥取聾学校 ひまわり分校 浜田ろう学校 松江ろう学校 学校が持ち回りで企画。人工内耳や軟骨伝導補聴等の最新情報や各校のケース交換・助言が受けられる貴重な学び合いの場

中国教育オーディオロジー研究会夏季研修会の例

8月1日(月)						
10:00~	受付					
10:30~	開会		補聴器のフィッティ	174		
		支援センター他		覚室		
10:50~ 12:10	講座 I	センター的機能(山口南・松江)	(呉南・尾道) (補聴器メーカー)	語学習 実際で 大附耶 全教諭		
12:10~	昼食		人工内耳の基礎・			
13:10~ 14:30	講座Ⅱ	補聴器のフィッテ ィングと評価 (尾道)	応用(ST)	語学音 実際で 大附軍 全教諭		
14:45~ 16:45	講演	「 思考力を高め, ~ 9歳レ 【第 1 会場 中 ⁹		5先生 競賞室		
18:30~ 懇親会 【 会場は未定 】						
8月2日(火)	a	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			
9:00~ 10:20	講座Ⅲ	オージ おり 5Aの見方と 聴力測定の実際 (岡山・広島南)	耳鼻科的基礎知識 (耳鼻科医師)	語学記 実際(大附語 余教諭		
10:35~ 11:55	講座 IV 	乳幼児の教育相談 (浜田)		語学程 実際征 大附租 幹教諭		
13:00~	総会	【第1会場 中学	≠部棟 1 階 会議室,第 2 会場 中学部棟 3 階 視聴	覚室】		
			到幼児教育相談			

講座として、聴能関係や人工内耳、乳幼児教育相談等にかかわる取組や情報交換を行っている。

また連携のキーパーソンである耳鼻科医や言語聴覚士にも講演・講座を依頼し、各校の専門性の充実のために協働いただいている。

盲ろう児の支援

乳幼児教育相談 の取組

先生 覚室】

10·10 | 闭云 【常】云炀 中字即棵 | 陌 云蹑至、宪之云炀 中字即棵 3 陌 倪赋 賞室

6 ろう学校乳幼児教育相談の保護者支援 初期相談の取組について

- 母親や家族の不安や想いを受けとめる
- 初期の親の情報のニーズに応じた基本的知識の 情報提供のプログラミング

く初期相談の取り組み> 愛 着 関 係 の 形 成 母子関係の建て直し・母子コミュニケーションの育ち 家 族 の 安 定

母親と母子関係を支える家庭の再構築と自立への援助

育 児 や 教 育 へ の 期 待 知識をもつ・理解する・実行する・情報の整理

初期相談の取組の内容

〇インテーク (カウンセリング)

母親の家族や自分自身への想いを出してもらいながら、個別的な家族のニーズを把握し、安定に向けて一緒に考えていく

○基本的な事柄の情報提供「はじめのいっぽ」

- ◆からだづくりとこころ育て(基本的な子育て)
- ◆大切な親子の愛着関係
- ◆きこえとオージオグラム
- ◆補聴器と管理
- ◆人工内耳
- ◆コミュニケーション(まなざし·音声・ベビーサイン・手話)
- ◆福祉
- ◇一側性難聴とかかわり方 *愛着関係等の必要な資料も一緒に

保護者に将来的な見通しがもてるための 学校全体で取り組む活動

ロールモデルの存在を 身近に感じてもらえるような校内の連携協働

他学部の児童生徒たちや聴覚障がい教員

- 〇絵本の読みきかせなどの保育参加
- 〇小学部わくわく発表会の案内
- 〇中学部地域の方との手話学習会の招待
- 〇高等部生徒の卒業前体験発表等
- 〇保護者学習会・手話学習会等(聴覚障がい教員)
- 〇全校行事(体育祭や学園祭等)

保護者の障がい受容や子どもの障がい認識の促進へ

保護者支援(情報提供) 就学等の将来的な見通しがもてるための取組

【乳幼対象】幼稚部についての情報提供

- ○幼稚部オープンスクール(年2回・1週間) 学級保育や合同保育の見学・主事説明
- 〇幼稚部の行事や保育活動の体験(随時)
- 〇幼稚部保護者学習会の案内(随時)

義務教育以降の就学に向けた情報提供

【乳幼・幼稚部:保護者全員対象】

〇ろう学校見学会(小中高・舎:各部主事説明)

【乳幼・幼稚部:4歳児の保護者対象】

- 〇ろう学校小学部見学・説明会(小主事説明)
- 〇小学校難聴学級見学会(本校担任·担当引率)
- 〇知的等特別支援学校見学会(本校担任·担当引率)。

7 まとめ

- きこえない子どもの愛着関係の形成のために、保護者の安定と育児自立が促される早期支援が鍵。ろう学校はロールモデル教育環境を強みに、特に障がいの受けとめを大事にした保護者支援を行う。
- •「新生児聴覚検査から早期支援・早期療育までの円滑な実施」のためには「手引書」だけでは不十分で、それを活かして、県または各圏域の実情に応じた支援体制の構築と課題検討を継続して行う連絡協議会の機能(キーパーソン・自治体が核)が重要。
- ・全国ろう学校における乳幼児教育相談の明確な位置付け(センター的機能の加配による充実)。
- ・学校における聴覚障がい教育の専門性の確保と維持(県教委のバックアップ)及び関係機関(療育・教育機関同士も含む)との連携協働による専門性の向上が円滑な早期支援と充実に繋がる。 21